

会社案内
Corporate
Profile • 2019

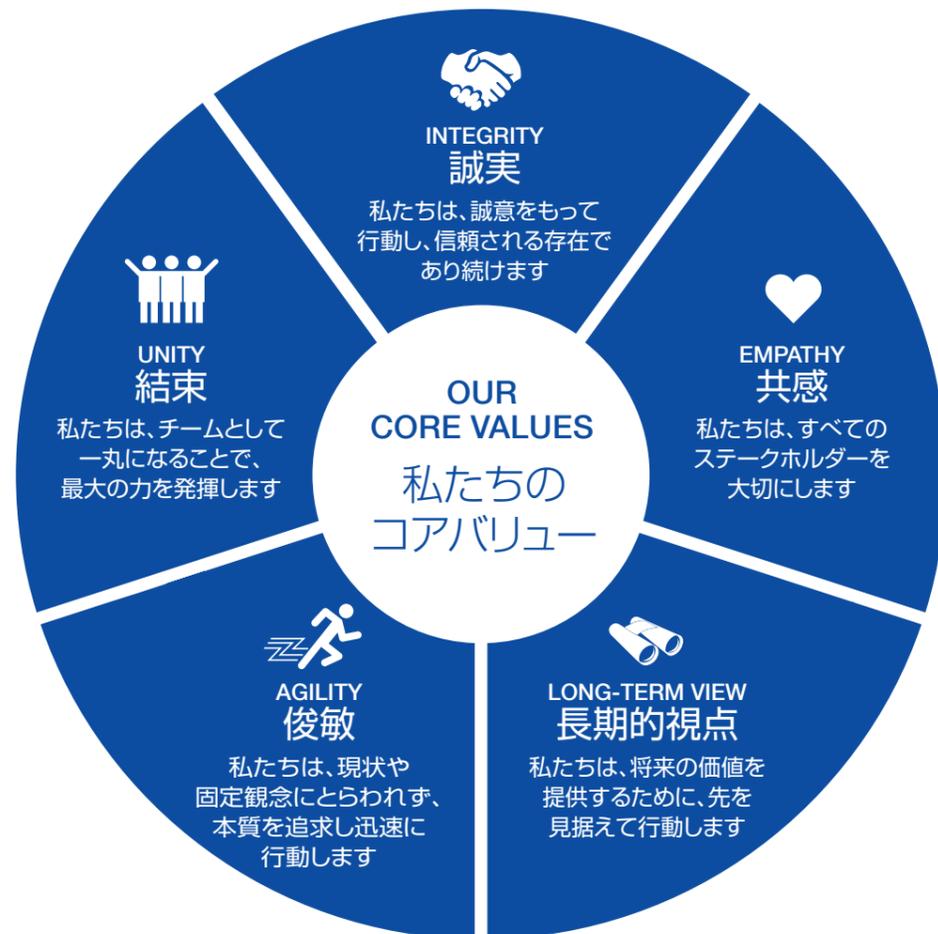
OLYMPUS

Corporate Philosophy

私たちの活動のすべては、経営理念である「Our Purpose 私たちの存在意義」と「Our Core Values 私たちのコアバリュー」に基づいています。

OUR PURPOSE 私たちの存在意義

Making people's lives healthier, safer and more fulfilling
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現



— 持続的な成長をつづけるために
当社はより強力かつ機動的な会社に生まれ変わります

取締役 代表執行役 社長兼CEO **竹内 康雄**

オリンパスは1919年に顕微鏡事業で創業しました。顕微鏡のレンズ研磨技術は、「一子相伝風の秘術に近いもの」といわれ、その開発は苦闘の連続であった、と伝えられています。創業者が築いたこの光学技術こそが、当社の技術の原点。これが脈々と受け継がれ、カメラや内視鏡の技術へと発展しました。

私は入社以来、経理、経営企画、業務改革などの本社部門、医療やライフサイエンス事業の企画に携わってきました。また、会社人生の約16年間を海外駐在員として過ごしています。振り返ってみると、オリンパスヨーロッパの代表者として駐在した際、欧州での経営の在り方を見てグローバル経営の目指すべき姿を描いたように思います。複数の文化・慣習・価値観を持った国の集合体である欧州の中で最大効率を考えた経営を行うには、それぞれの国をよく知る現地の社員の意見を尊重しつつ、ヘッドクォーターが現地の状況を理解し、地域としての経営方針を立て、事業計画の達成を後押しする必要がありました。

そして今、いよいよグローバルかつグループ全体が一体となって経営を行う体制へと移行する時がきたのです。2019年1月、オリンパスは真のグローバル企業を目指し、企業変革プラン「Transform Olympus」を発表しました。創業100周年を迎え、さらに持続的な成長をつづけるために当社はより強力かつ機動的な会社に生まれ変わります。そして、これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通し、社会に貢献してまいります。

“Business to Specialist” Company

“Business to Specialist” Companyは2016年4月からスタートした「2016経営基本計画」に規定された経営方針のひとつです。顕微鏡の量産化からスタートしたオリンパス。当社が培ってきた光学技術は、さまざまな分野の先端技術と融合しながら、常に新たな境地を切り開き、高品質な製品を生み出してきました。私たちは、専門性の高い顧客(Specialist)のニーズに寄り添い、顧客の信頼を得ることで成長してきた企業です。これからも“Business to Specialist” Companyとしての強みを生かし、高い倫理感を持って、イノベティブマインドと高い技術開発力、卓越した業務品質により、今まで以上に顧客にとって価値あるパートナーであり続けたいと考えています。

経営方針

“Business to Specialist” Company

- ・ 専門性の高い顧客の要求、潜在ニーズを正しく理解し、的確なソリューションをスピーディーに提案・提供する。
- ・ 高い倫理観を持ち、イノベティブマインドと高い技術開発力、卓越した業務品質でこれを実現する。
- ・ 永続的な成長を通じて、すべてのステークホルダーの期待に高い次元で応えるとともに、良き企業市民として行動する。

One Olympus

- ・ グローバル・グループベースで、価値観・戦略を共有し、経営資源を最大活用することにより、全社のパフォーマンスの最大化を図る。

Management Structure

全社経営資源の最大活用を目指すべく、2015年度から事業軸と機能軸を融合させた「マトリックス型」の事業運営を始めた当社。それに加え、2019年度からは国内外の当社グループの事業運営を一元的に統括する体制へと転換します。2019年4月1日付で、5名の経営執行責任者が就任。また、その5名で構成されるグループ経営執行会議が新たに設置されました。これによって、グローバル・グループ全般を一元的に管理していくとともに、意思決定の迅速化・効率化を目指します。



(写真左から) Chief Operating Officer (COO:最高事業責任者)・田口 昌弘、Chief Financial Officer (CFO:最高財務責任者)・境 康、Chief Executive Officer (CEO:最高経営責任者)・竹内 康雄、Chief Administrative Officer (CAO:最高管理責任者)・Stefan Kaufmann、Chief Technology Officer (CTO:最高技術責任者)・小川 治男

いかなるときも法令および社会規範に従い、
企業価値の向上に努めます。

オリンパスグループは、いかなる場面においてもコンプライアンス上の懸念を看過しない組織を整えるとともに、その状況を把握し、さらなる強化に努めています。

Compliance Commitment

コンプライアンスコミットメント

オリンパスは、長きにわたり、輝かしい技術革新の歴史を積み重ねてきました。

私たちが、将来にわたって成功するためには、経営理念に従った行動と継続、なかでも誠実の実践が必要であると信じています。そのため、経営陣は、誠実という価値観を組織に醸成させるべく、先頭に立って推進していきます。

オリンパスのために働くすべての人々は、その立場に関係なく、常に、あらゆる法や規制そして社内規則を守る必要があります。

疑問がある場合には、ガイダンスが与えられます。疑念が呈された場合には、報復の恐れなしに適切なレビューや調査が行われます。もし私たちが規定に反するような事態を発見した場合には、是正措置を実施します。

このような行動の積み重ねこそが、従業員、顧客、患者、株主や規制当局に代表される様々なステークホルダーから、信頼を得てそれを維持する確固たる方法であると信じています。

取締役 代表執行役 社長兼CEO 竹内 康雄

コンプライアンスの推進

経営陣のコンプライアンスに対する意識改革と説明責任の明確化

経営陣がコンプライアンスコミットメントを宣言しました。全社員が社会の一員として持つべき意識・倫理観やその行動原理をあらためて問いただし、その上で指針となる「グローバルコンプライアンスポリシー」を制定しました。

また経営陣は、コンプライアンスの推進状況を公表するとともに、あらゆる局面で説明責任を果たします。

コンプライアンス推進を強化する体制の整備、コンプライアンス意識の醸成・徹底

コンプライアンス意識の醸成と企業風土改革のため、社外取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、チーフコンプライアンスオフィサーを任命しました。

また、社員の各階層におけるコンプライアンス教育を強化し、定期的に意識調査も実施します。

内部通報制度の拡充

内部通報制度を十分に機能させるために、社内の内部通報窓口のほか、社外にも内部通報窓口を設置するなどして、コンプライアンスヘルプラインを整備・拡充しました。

また不正を知った者の内部通報義務を明確化しています。

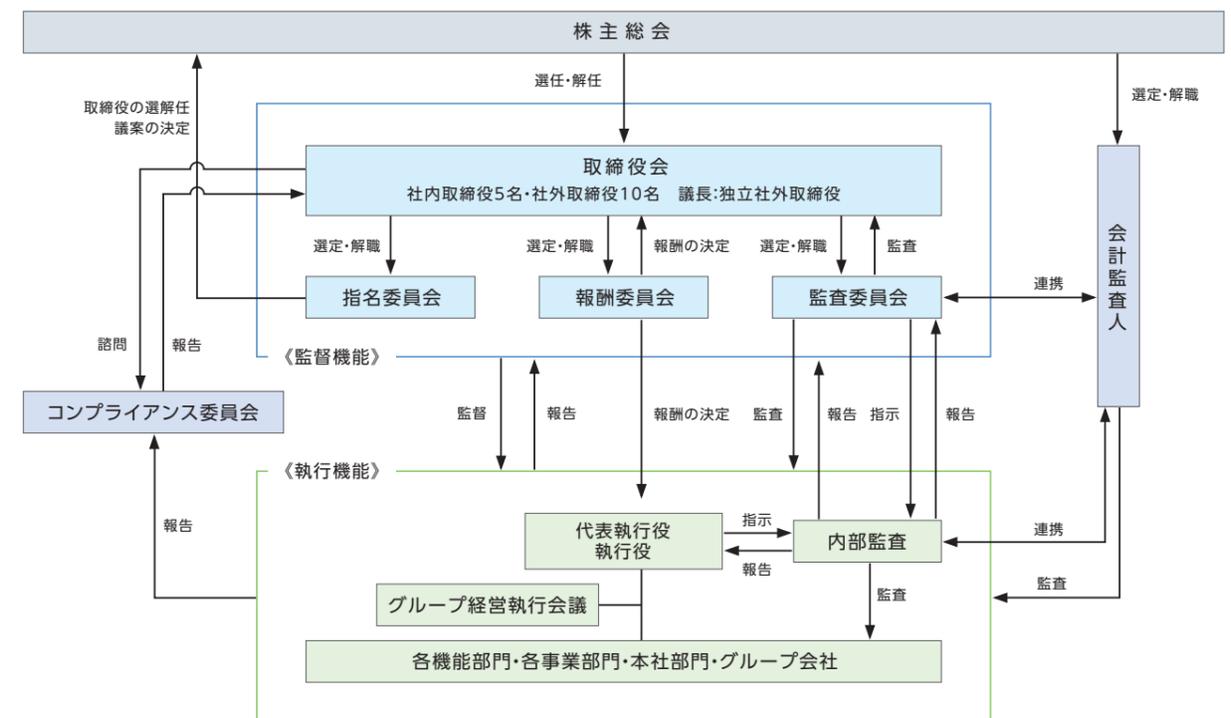
コーポレートガバナンス体制の強化

経営の「監督」と「執行」を明確に分離

オリンパスは経営の「監督」と「執行」を明確に分離した体制を構築しています。取締役会構成員の過半数は独立社外取締役で構成。また、取締役会の議長をはじめ、3つの委員会(指名委員会・報酬委員会・監査委員会)の委員長は独立社外取締役が務めます。

指名委員会等設置会社への移行

オリンパスは、指名委員会等設置会社へ移行し、業務執行の意思決定の迅速化およびガバナンスの強化と透明性の一層の向上を図ります。また、「監督」と「執行」の分離を行うことで、取締役会は経営の根幹に関する重要事項の決定と経営の監督に特化します。



Opto-Digital Technology をもとに価値ある技術を創造し、「未来」を実現していきます。

— Opto-Digital Technology が生むオリンパスの技術 —

顧客価値を生み出すワークフロー視点でまとめたコア技術群



コア技術マネジメント戦略

経営方針の“Business to Specialist” Companyを推進するため、技術開発部門では医療/科学/映像の3事業を支えるコア技術を抽出。これらを各事業のお客さまが製品を使用する際のワークフローで分類し、5つのコア技術群として整理・共通化しました。これによって、事業別に点在していたコア技術の水平展開を目指します。お客さまに新たな価値を提供するためのコア技術と、コア技術を支える基盤技術をつなぐ戦略を「コア技術マネジメント戦略」と呼んでおり、基礎研究と商品開発の連携に欠かせないものです。

I. アクセス技術群

お客さまが製品を手手にされて最初に行う操作、それは観察・検査対象や被写体に近づくための操作です。これをサポートする技術が「アクセス技術群」。たとえば、医療事業では内視鏡の細径化や、大腸内視鏡などの湾曲部の挿入技術、科学事業では工業用内視鏡の遠隔観察技術、映像事業では高速オートフォーカスや手ぶれ補正がこれにあたります。超小型アクチュエーターの活用などによって、診断・観察・撮影領域の拡大を目指します。



短時間で管腔深部への挿入実現を目指す技術



多彩な用途に対応した工業用内視鏡の先端アダプタ

II. イメージング/センシング技術群

観察・検査対象や被写体に近づいたあとは、対象物を撮像し、画像化する技術が必要となります。これらの技術が「イメージング/センシング技術群」です。全事業に共通する4K・8K対応や3D画像をはじめ、医療事業では内視鏡の拡大観察や画像強調観察、科学事業ではリアルタイムの観察を実現するための細胞のライブ画像取得、映像事業では深度合成技術を用いたマクロ撮影の強化技術など。高精細画像や画像合成などを応用し、診断・観察・撮影機能の強化を図ります。



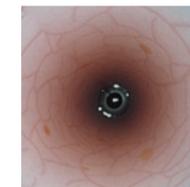
手前から奥までピン트가合う深度合成によるマクロ撮影



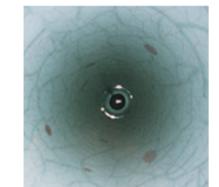
切れ目ない光の動きを記録するライブコンポジット(比較明合成)

III. 認識/解析技術群

内視鏡、顕微鏡、カメラなどで取得した画像や映像から注目すべき箇所を認識し、解析する技術が「認識/解析技術群」です。医療事業では、特定の波長に絞った光を使用する画像強調観察(NBI)技術によって病変発見をサポートしたり、誤診率を低下させたりといった技術開発に取り組んでいます。科学事業では、非破壊検査における故障解析や欠陥解析のほか、生物顕微鏡では生細胞観察の画像解析に力を入れています。



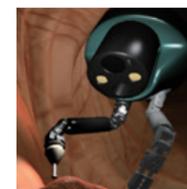
通常観察



NBI

IV. 治療/処置技術群

医療事業では対象部位の処置や治療に関わる技術を保有しており、それらは「治療/処置技術群」に含まれます。内視鏡処置具のラインアップの拡充や外科手術用エネルギーデバイスの適用拡大のほか、手術支援ロボットによる術者負担の軽減や耳鼻科・泌尿器科・婦人科への局所治療エネルギーデバイスの開発などに取り組んでいます。



消化管内腔にて自在な操作を実現する治療支援システム



処置性能を向上させたエネルギーデバイス

V. レポート/エビデンス技術群

診断・治療のエビデンスや装置の使用記録に関わる技術が「レポート/エビデンス技術群」です。医療事業では医療の質の向上に貢献するために、内視鏡画像の記録や洗浄履歴などの検査支援の技術開発をサポートし、科学事業では大量データの保存やレポート作成を容易にするなどのソリューションの提供を目指した技術開発を行います。ICTの活用により、記録や情報共有を容易にし、お客さまの安全・安心と利便性の向上の両立を目指します。



医療の質の向上につながるICTの活用事例

オリンパスには、新しい価値を創造するという
熱い思いが流れています。

創業以来、光学技術を磨き続ける「科学事業」。
電子映像技術の最先端研究をけん引する「映像事業」。
そして、これらの技術を活用して成長してきた「内視鏡事業」。
画像診断から処置や治療へと進化を続ける「治療機器事業」。
各事業で培われた技術がオリンパスの強みです。

● 内視鏡事業 Endoscopic Solutions Division

病気の「早期診断」に貢献する消化器内視鏡や、患者さんの身体への負担が少ない「低侵襲治療」に貢献する外科用内視鏡。これらを通じて医療従事者を支え、世界の人々の健康に貢献します。

● 治療機器事業 Therapeutic Solutions Division

消化器内視鏡に挿入して処置や治療を行う内視鏡処置具や、内視鏡外科手術や開腹手術において血管封止や組織の切開などに使用するエネルギーデバイス。オリンパスは医療従事者や世界の人々の期待に応えるさまざまな医療機器を提供します。

● 科学事業 Scientific Solutions Division

オリンパスが創業時から製造している顕微鏡は、血液検査などの臨床検査やがん診断などの病理検査、生命科学や医学分野の最先端研究、製造ラインでの品質管理など、さまざまな場面で活躍しています。また、工業用ビデオスコープや超音波探傷器など、点検・検査の分野で活用され、社会インフラの安全を支えています。

● 映像事業 Imaging Division

世界一流のレンズ加工技術により最高峰の画質を実現するオリンパスのカメラは、世界中の写真家から愛されています。一眼レフと同等の性能を持ちながら小型・軽量なミラーレス一眼カメラ、防塵・防水設計によりアウトドアシーンで活躍するToughシリーズなど、個性的なカメラを生み出しつづけています。

内視鏡

内視鏡ビデオスコープシステム



4K内視鏡システム



3D内視鏡システム



治療機器

内視鏡処置具



エネルギーデバイス



ライフサイエンス

システム生物顕微鏡



倒立型リサーチ顕微鏡



産業

デジタルマイクロスコープ



工業用ビデオスコープ



超音波探傷器



蛍光X線分析装置



デジタルカメラ

OLYMPUS OM-D E-M1X



OLYMPUS OM-D E-M1 MarkII



OLYMPUS OM-D E-M10 MarkIII



OLYMPUS PEN E-PL9



Tough TG-6



ICレコーダー

ICレコーダー LS-P4/V-863



2019年10月12日、オリンパスは創立100周年の節目を迎えます。100周年の機会を通じて、私たちの存在意義である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」のために、次の100年に向けて、常に未来を見据えた革新的企業となるべく、歩みを進めていきます。

1919 創業者・山下長(やました・たけし)により顕微鏡の国産化を目指し、創立。当時の社名は高千穂製作所(10月12日)

1920 顕微鏡旭号を発売

1921 商標オリンパスを登録

1927 液浸系顕微鏡昭和号(GK)を発売

1936 写真レンズ「ズイコー」を開発し、当社初のカメラセミオリンパスIを発売

1949 世界初の実用的な胃カメラを開発

1950 革新的なハーフサイズカメラオリンパスペンを発売

1952 授眼部にカメラを装着するファイバー付胃カメラGFSを発売

1959 世界初のマイクロセットテープレコーダーズイコーパールコーダーを発表

1964 ドイツ・ウィンター&イベ社との協業に基づき外科用硬性内視鏡に本格的に進出

1966 欧州現地法人オリンパス・オプティカル・カンパニー(ドイツ・ハンブルク)を設立

1968 顕微鏡、測定器、医療機器分野の米国現地法人オリンパス・カメラ・コーポレーションを設立

1969 小型軽量のシステム一眼レフカメラOM-1を発売(発売当初の名称はM-1)

1972 カメラ分野の米国現地法人オリンパス・カメラ・コーポレーションを設立

1975 超音波内視鏡システムを開発

1977 顕微鏡BH2を発売

1979 内視鏡ビデオ情報システムを発売

1980 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS100(1989年)/200(1990年)を発売

1983 無限遠光学系(UIS光学系)を採用したシステム生物顕微鏡BXを発売

1985 走査型レーザー生物顕微鏡FLUOVIEWを発売

1987 欧州に内視鏡修理子会社オリンパス・エンドリベア・ヨーロッパを設立

1990 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERAを発売

1991 最初のμ[mju:]カメラを発売。このシリーズはオリンパスカメラの中で最もセラーとなる

1993 欧州に内視鏡修理子会社オリンパス・エンドリベア・ヨーロッパを設立

1995 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERAを発売

1996 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERAを発売

2000 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERAを発売

2001 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERAを発売

2002 世界初のハイビジョン内視鏡ビデオスコープシステムEVIS LUCERAを発売

2003 内視鏡手術/検査用統合ビデオシステムVISERAを発売

2004 世界初のツイーンキャンシステム搭載の共焦点レーザー走査型顕微鏡FLUOVIEW FV1000を発売

2005 世界初のハイビジョン内視鏡ビデオスコープシステムEVIS LUCERA SPECTRUMを発売

2006 中国にオリンパス内視鏡修理技術センター 上海を設立

2008 ベトナムに医療機器とデジタルカメラの製造工場オリンパスベトナムを設立

2009 非破壊検査装置事業の拡大のため、イノベックスシステムズ社を買収

2010 欧州の医療事業関連の開発製造拠点をOSTEとしてマネジメントを一元化

2011 新経営体制の下、「Back to Basics」を掲げるとともに、中期ビジョンを発表

2012 内視鏡ビデオスコープシステムEVIS LUCERA ELITEおよびEVIS EXERA IIIを発売

2013 ミラーレス一眼カメラOM-D E-M5を発売

2015 ミラーレス一眼カメラOM-D E-M1を発売

2016 ミラーレス一眼カメラOM-D E-M1 Mark IIを発売

2017 4K 3Dビデオ技術搭載の手術用顕微鏡システムORBEBEを発売

2018 米国の医療事業関連の開発製造拠点をOSTAとしてマネジメントを一元化

2019 経営理念を改定

きょう しん 強靱な製造現場と、それを支える優れた生産技術。 ものづくりのDNAが高品質のオリンパス製品・サービスを支えています。

創業以来、ものづくりのDNA(遺伝子)を受け継いできたオリンパス。そのDNAを未来に引き継ぎ、次代のものづくりを提案・実現するのが、製造部門の使命です。ナンバーワンの生産技術開発と、製造の現場力を継続的に高め、企業力を飛躍的に伸ばしていきます。

ナンバーワン技術への挑戦

レンズ加工システム

レンズは長い間、職人技を持つ匠の技能に頼って加工されてきました。しかし、大量生産や品質の安定化、コストダウンの要求が高まり、レンズ加工も自動化が切望されるようになりました。

ただ、市販のレンズ加工機はオリンパスの求める精度を満たす設備(機器)ではありませんでした。そこで当社は他社に先駆けて、レンズの自動加工システムの自社開発に挑戦しました。研磨効率を高めるための研磨用の砥石の製作、カン・コツ作業の定量化を重ねた結果、高精度な加工条件を再現することに成功したのです。

光学機器は、現在も日々進化しています。レンズに求められる精度やコストの要求レベルはますます高くなっています。これからも、生産技術に携わる技術者によってレンズの自動加工システムは進化し続けるでしょう。オリンパスのレンズ加工技術への取り組みに終わりはありません。



レンズ加工システムOLS

内製化技術開発

「世界一の医療用内視鏡や処置具をつくらう」。市場に部品や設備がなければ、自社内で開発を進めて、独自の製品をつくり上げてきました。この信念こそ、オリンパスの内視鏡が世界中のドクターに受け入れられているゆえんなのです。

製造現場には、「キーパーツは自分たちでつくる」という意欲がみなぎっています。ものづくりに携わる人の思いが、他社の追随を許さないオリンパスの内視鏡や処置具の技術を支えています。



内視鏡の操作部(左)と先端部(右)

顧客ニーズにこだわる

防水カメラ

1986年、オリンパスは世界で初めて生活防水機能を備えた全自動コンパクトカメラ「AF-1(愛称:ぬれてもピカソ)」を発売しました。当時、不可能だと思われた生活防水の機能を確立したことで、ヒット商品となりました。

これらの防水機能の実現には、カメラの設計はもちろん、防水ゴムなどの部品選定や水漏れチェックの試験などの試行錯誤がありました。しかしながら、ものづくりに携わるメンバーの「生活防水機能付きのカメラを低価格でお客様に届けたい」という思いが、世界初への原動力になったのです。またこのカメラによって、製造の現場にものづくりの技術を生み出す喜びが根づきました。

防水技術はその後の「μシリーズ」に受け継がれ、現在では水深15mでも撮影可能な「Tough TG-6」へと進化しています。そして、「防水カメラはオリンパス」といわれる不動の地位を築いています。

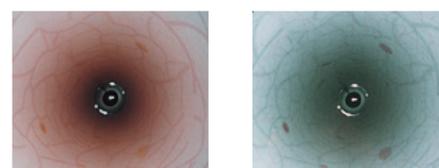


Tough TG-6

光学多層膜技術

オリンパスは、ガラスなどの基材に特定の波長の光だけを通す「光学フィルター」の内製化に取り組んでいます。研究者のニーズに応えるため、科学分野から検討が始まったこの技術は、今では医療分野へと広がりを見せています。

そのひとつである医療用内視鏡の狭帯域光観察(NBI)は、がんなどの微細病変の早期発見に貢献しています。光学機器メーカーのトップであり続けるため、これからも光学多層膜技術を磨き続けていきます。



光学フィルター通常光(左)とNBI(右)

品質でブランドをつくる

内視鏡のリペアサービス(米国サンノゼ)

人体に挿入して使う内視鏡は、少しの動作不良が医療事故につながる可能性があります。そのため、修理完成品の品質にも新品と同等のものが求められます。オリンパスは、患者さんが世界のどの地域にいても安心して内視鏡検査・治療が受けられるように、業界トップの修理サービス体制を整備してきました。

代表例が米国カリフォルニア州にある世界最大の内視鏡修理センター「サンノゼ ナショナルサービスセンター」です。広大なサービスセンター内では、約500人が日本の内視鏡工場の組み立て工程と同水準の修理作業を行っています。

現在、オリンパスのサービス拠点は世界6大陸に約200カ所。医療事業のサービス機能が主管するグローバルな「サービス品質診断」を通じ、どの地域でも最高のサービスを提供していきます。ものづくりの「品質」がオリンパスの内視鏡事業を支えています。



サンノゼ ナショナルサービスセンター

ライセンス制度

医療機器は人体にじかに接触するだけでなく、診断や治療に用いられるため、非常に高い品質が要求されます。そこで、筆記・実技試験に合格したライセンス取得者だけが作業工程に就ける「ライセンス制度」を導入しました。

ほかにも、徹底した品質を守るため、作業者が確実に理解できる作業標準書の整備やリアルタイムでの監視体制の強化にも取り組んでいます。これらの取り組みを継続することで、お客様に「安心・安全」を届けます。



「ライセンス制度」で高品質を維持

ものづくりは人づくり

オリンパスの高度技能者育成制度

高度なコンピューター数値制御の微細加工機が普及する現代でも、生産ラインの加工に人間が介在する限り、熟練の技が必要です。昨今、多くのメーカーで高度技能者の熟練の技を、次世代を担う後輩へ、いかに技能継承していくかが問われています。

オリンパスには、「人は製造の財産」との思想に基づいた高度技能者育成制度があります。この制度は、創業の原点である顕微鏡をつくり上げる人材の育成・継承を意識した旧・伊那工場(現・長野オリンパス)の「テクニカルマスター制度」が出発点でした。

「ものづくり」の現場には、必ず師匠が存在します。さまざまな技能が、先達の技術者から継承されてきました。とりわけ顕微鏡の歴史は、このノウハウなしには築かれなかったでしょう。受け継がれてきた優れた技能は、過去から現在へ、そして未来へと受け渡されていきます。



高度技能者育成の様子

生産革新活動

生産活動で革新を続けるためには、現場における問題点を発見し、その改善を推進できる人材を育成することが重要だと考えています。そこで、オリンパスは工場診断士を育成する仕組みをつくりました。

「人づくり」こそ、オリンパスの生産革新の根幹です。25人の工場診断士は、日本だけでなく、アジアや欧米の工場にも活動の場を広げています。「現地・現物・現実」に根ざし、日々改善・日々実践の生産革新活動は続きます。



工場診断活動の様子

オリンパスは、大腸がんで亡くなる方々を ひとりでも減らしたいと願っています。

「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」

高齢化や生活習慣の欧米化などの理由により、日本では2人に1人が「がん」にかかる時代になりました。中でもこの30年間は大腸がんが増えていきます。大腸がんは早期発見・早期治療により約95%以上が完治できますが、進行するまで自覚症状がほとんどなく、2006年頃は検診の受診率が30%以下であることが問題になっていました。しかし、当時の日本では大腸がん検診の啓発を大規模に行うキャンペーン活動はありませんでした。

そのような中で、世界中の医療機関に内視鏡などの医療機器を供給しているオリンパスは、「医療・健康」領域の企業市民活動で貢献したいという思いを持っていました。そして大腸がんで亡くなる方をひとりでも減らしたいと願い、2007年2月に「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」を立ち上げました。キャンペーン名には「大腸がんの現状にしっかりと向き合う勇気(ブレイブ)を持とう、大腸がん検診や精密検査受診の輪(サークル)を広めよう」というメッセージが込められています。

出典「公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計'15」

複数の企業が参加する活動から公益的な活動へ

大腸がん検診は対象者が多く、検診や精密検査の普及啓発活動はオリンパス1社だけで推進していくには限界がありました。複数の企業や団体に対して、ブレイブサークル活動への参加を呼びかけ、2009年7月には大腸がん撲滅キャンペーンの推進団体としてNPO法人ブレイブサークル運営委員会を設立。企業中心の活動から公益団体が運営する活動へ発展したのです。

同NPO法人は国や都道府県のがん対策部門と連携して、公共施設へのポスターの掲示や週末に開催する市民参加型のイベントやウォーク大会を通して大腸がん検診や精密検査の受診を呼びかけました。市区町村のがん対策部門が住民に検診案内を送付する際に同封する大腸がん検診・精密検査説明小冊子も提供。検診受診率向上に向けた受診勧奨を実施するようになりました。

オリンパスは「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」のオフィシャルサポーターの一員として、NPO法人ブレイブサークル運営委員会が行政と連携して全国で展開する大腸がん検診・精密検査の啓発活動を支援しています。また同NPO法人の大腸がん検診啓発イベントの運営などに社員もボランティアスタッフとして参加し、この活動を支援しています。

大人だけではなく、子どもたちにも「がん教育」を

日本の対策型検診では、胃がん検診で内視鏡が推奨されています。また大腸がん精密検査でも内視鏡が推奨されています。しかしNPO法人ブレイブサークル運営委員会が実施した「大腸がんに関する全国意識調査」では、大腸がん精密検査を受けない方々からは「どんな検査内容なのか知らない」「痛くてつらそう」との声も…。内視鏡について正しく知られていないのが現状です。

がん啓発に関して大人だけでなく、子どもたちにも広がりを見せています。たとえば、学習指導要領の改訂による「がん教育」の追加。昨今の学校教育では従来の知識・技術の詰め込み教育から、実際に知識・技術を活用して社会・世界と関わってより良い人生を送ることが重要視されるようになったのです。

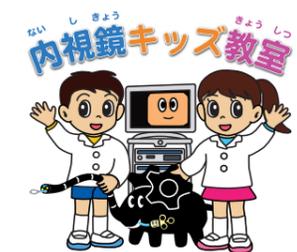
オリンパスでは企業市民活動の重点領域のひとつとして掲げる「医療・健康」の次世代教育活動を模索するため、事業場が所在するエリアの行政や教育委員会、学校と意見交換を行いました。その結果、オリンパスが世界中の医療現場へ供給している内視鏡について子どもたちが学ぶことの必要性を感じたのです。

「内視鏡キッズ教室」を開始

がんの早期発見・早期治療にも貢献している内視鏡の役割について正しく知ってもらうため、教育委員会や学校と連携し、小・中学生を対象にした「内視鏡キッズ教室」を2016年から開始しました。オリンパスの社員が学校を訪問する場合もあれば小学生や中学生をオリンパスの事業場に招くことも。内視鏡が疾患の早期発見・早期治療にどのように貢献しているか、どのような構造なのかなどを説明しています。

「内視鏡キッズ教室」の講師は開発部門や製造部門など、幅広い部門の社員が担当。体験を通して、内視鏡が医師の「目の代わり、手の代わり」に使用されていることや疾患の早期発見・早期治療に役立っていることを学べるプログラムを用意しています。

この教室は、オリンパスの事業場がある東京都内や青森県内、福島県内、長野県内を中心に年間30回程度実施しています。2018年にはタイでも中学生を対象に実施。日本以外に住む人々に対しても内視鏡の役割や疾患の早期発見・早期治療について知っていただく活動へと広がりをみせています。



おなかにまつわるさまざまな病気や内視鏡検査に関する情報提供を行っています。

人々の健康を応援するため、オリンパスは医師監修の下、
「おなかの健康ドットコム」を運営しています。

おなかの健康ドットコム^{*1}

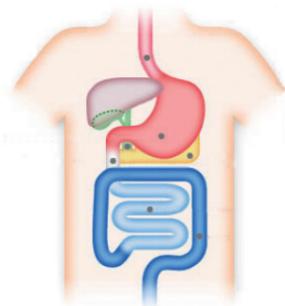
オリンパスは、おなかにまつわる病気や内視鏡検査について多くの方々に理解を深めていただくため、医師監修の下、健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」を運営しています。



*1 URL
<https://www.onaka-kenko.com>

おなかの病気・がん

おなかの中には食べ物を消化・吸収する大切な臓器が収まっています。「おなかの健康ドットコム」では、食道・胃・大腸などの消化管の役割や起こりうる病気を掲載しています。



がん検診

日本人のがん検診受診率は依然として低く、毎年多くの方が亡くなられています。一方で、早期に発見できれば、治る可能性が高まるこの病気。こうしたがんの発見にも内視鏡は役立っています。「おなかの健康ドットコム」では、対象となるがん検診がすぐに確認できるコンテンツや日本におけるがん対策の取り組みも解説しています。



内視鏡検査

内視鏡は体の中を映し出す医療機器です。そのため、医師が直接目で見て検査や治療をすることができます。「おなかの健康ドットコム」では初めて内視鏡検査を受ける方の不安や疑問を解消するために、胃や大腸の内視鏡検査の受け方について、わかりやすく紹介しています。



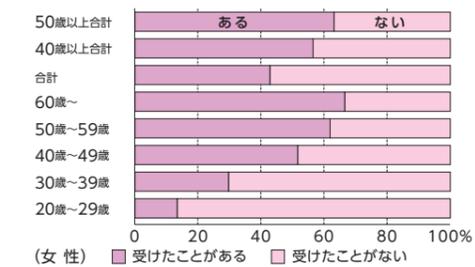
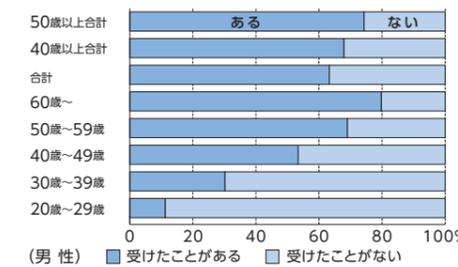
内視鏡の日^{*2}



オリンパスは内視鏡および内視鏡検査の理解促進を目的に、内視鏡の日に合わせて「内視鏡検査に関する意識アンケート」を実施し、その結果を公開しています。

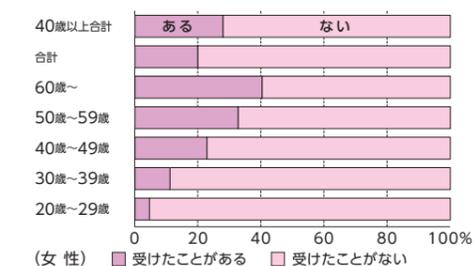
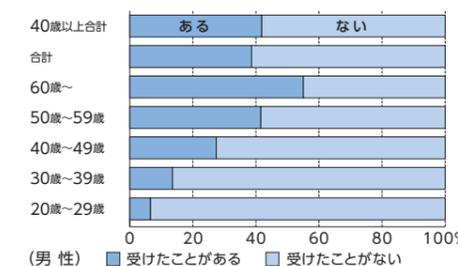
*2 内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、(財)内視鏡医学研究振興財団が7月14日を「内視鏡の日」と制定しました

Q: これまでに上部消化管内視鏡検査(食道・胃・十二指腸)を受けたことがありますか?



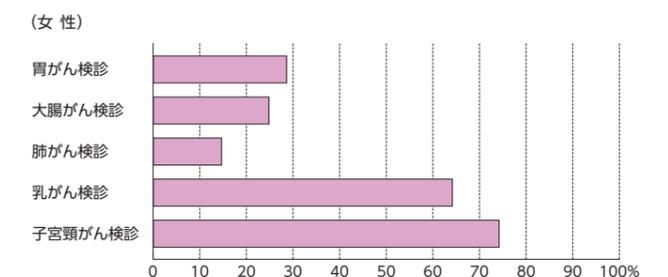
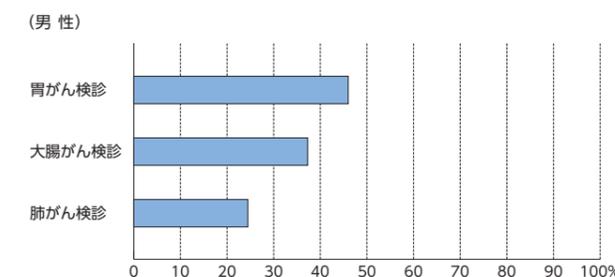
全体では半数程度の方が「受診経験がある」と回答しました。2016年度から胃がん検診の対象となった50歳以上に限定すると、男性74%、女性63%と高い比率になりました。

Q: これまでに大腸内視鏡検査を受けたことがありますか?



大腸がん検診(便潜血検査)の対象年齢となる40歳以上に限定すると、男性42%、女性28%でした。どの年代を比べても、男性の割合が女性を上回っています。

Q: 今までに受けたことがある「がん検診」をすべてお答えください。



本ページに掲載しているアンケート結果は2018年度のものであります。

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	740,557	786,497	793,862
営業利益	71,192	81,029	28,281
当期利益	42,810	57,092	8,049

事業別業績

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	
医療	売上高	570,398	616,331	634,301
	営業利益	114,703	121,784	111,934
科学	売上高	93,370	100,016	104,225
	営業利益	5,927	6,425	8,135
映像	売上高	62,824	60,298	48,679
	営業利益	153	-1,200	-18,268
その他	売上高	13,964	9,851	6,657
	営業利益	-1,139	-4,966	-3,521
全社消去	売上高	—	—	—
	営業利益	-48,453	-41,014	-69,999

地域別業績

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
	売上高	売上高	売上高
日本	157,014	153,764	146,344
北米	251,405	262,454	267,411
欧州	174,758	191,143	191,965
アジア・オセアニア	142,991	160,475	168,513
その他	14,388	18,661	19,629

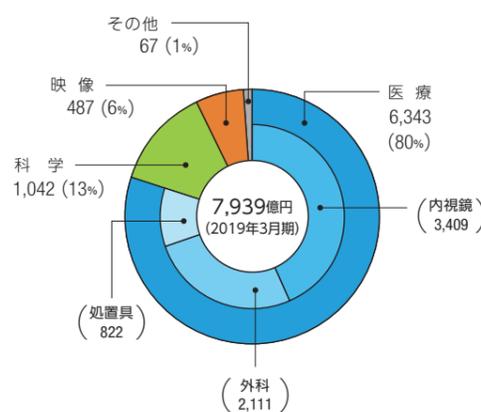
売上高/営業利益推移

(単位:億円)



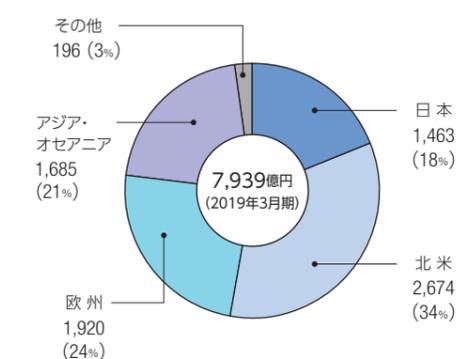
事業別売上高構成比

(単位:億円)



地域別売上高構成比

(単位:億円)



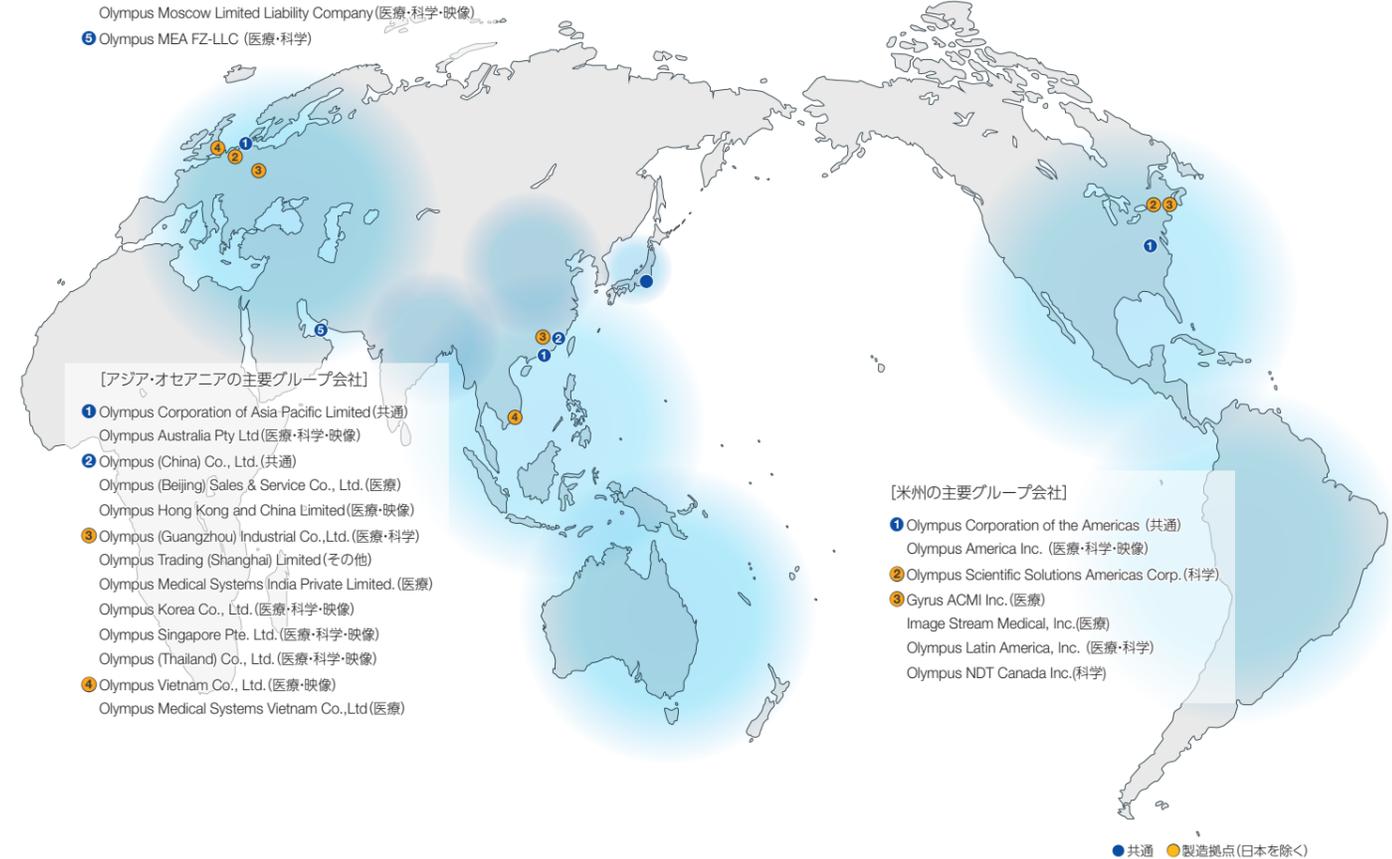
[欧州・中東の主要グループ会社]

- ① Olympus Europa SE & Co. KG (共通)
- ② Olympus Winter & Ibe GmbH (医療)
- Olympus Deutschland GmbH (医療・科学・映像)
- ③ Olympus Soft Imaging Solutions GmbH (科学)
- Olympus France S. A. S (医療・科学・映像)
- ④ KeyMed (Medical & Industrial Equipment) Ltd. (医療・科学・映像)
- Gyrus Medical Ltd. (医療)
- Olympus Czech Group, s.r.o. (医療・科学・映像)
- Olympus Moscow Limited Liability Company (医療・科学・映像)
- ⑤ Olympus MEA FZ-LLC (医療・科学)

[日本の主要グループ会社]

- オリンパス(株) (共通)
- オリンパスメディカルシステムズ(株) (医療)
- オリンパスメディカルサイエンス販売(株) (医療・科学)
- 長野オリンパス(株) (医療・科学)
- 会津オリンパス(株) (医療)
- 青森オリンパス(株) (医療)
- 白河オリンパス(株) (医療)
- ディーメディアクス(株) (医療)

- オリンパスデジタルシステムデザイン(株) (その他)
- オリンパスメモリーワークス(株) (その他)
- オリンパスロジテックス(株) (その他)
- オリンパスサポートメイト(株) (その他)
- (株)AVS(医療)
- オリンパスシステムズ(株) (その他)
- オリンパステルモバイオマテリアル(株) (その他)
- オリンパスRMS(株) (その他)



[アジア・オセアニアの主要グループ会社]

- ① Olympus Corporation of Asia Pacific Limited (共通)
- Olympus Australia Pty Ltd (医療・科学・映像)
- ② Olympus (China) Co., Ltd. (共通)
- Olympus (Beijing) Sales & Service Co., Ltd. (医療)
- Olympus Hong Kong and China Limited (医療・映像)
- ③ Olympus (Guangzhou) Industrial Co., Ltd. (医療・科学)
- Olympus Trading (Shanghai) Limited (その他)
- Olympus Medical Systems India Private Limited. (医療)
- Olympus Korea Co., Ltd. (医療・科学・映像)
- Olympus Singapore Pte. Ltd. (医療・科学・映像)
- Olympus (Thailand) Co., Ltd. (医療・科学・映像)
- ④ Olympus Vietnam Co., Ltd. (医療・映像)
- Olympus Medical Systems Vietnam Co., Ltd. (医療)

[米州の主要グループ会社]

- ① Olympus Corporation of the Americas (共通)
- Olympus America Inc. (医療・科学・映像)
- ② Olympus Scientific Solutions Americas Corp. (科学)
- ③ Gyrus ACMI Inc. (医療)
- Image Stream Medical, Inc. (医療)
- Olympus Latin America, Inc. (医療・科学)
- Olympus NDT Canada Inc. (科学)

● 共通 ● 製造拠点(日本を除く)



Olympus Europa SE & CO. KG (ドイツ)



Olympus Corporation of Asia Pacific Limited (香港)



オリンパス株式会社 (東京・本社)



Olympus Corporation of the Americas (米国)

オリンパス株式会社

[本社]	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス
[代表者]	取締役 代表執行役 社長兼CEO 竹内 康雄
[設立年月日]	1919(大正8)年10月12日
[資本金]	124,606百万円(2019年3月31日現在)
[連結従業員数]	35,124人(2019年3月31日現在)

OLYMPUS

オリンパス企業情報 公式アプリ
「OLYMPUS NEWS」無料ダウンロード



掲載されている内容を予告なく変更する場合があります。
環境配慮型の用紙およびインクを使用しています。

2019年7月発行 Printed in Japan

N8601549